

(様式第 1 号) (第 9 条関係)

事業基本計画書

2025年 3月 14日

長野県知事 様

住 所 東京都港区芝二丁目2番10号中和ビル3階
氏 名 GDsPJ2合同会社
代表社員 一般社団法人ジャパンクリーンエナジー1
職務執行者 松澤 公貴
〔法人にあっては、主たる事務所の
所在地、名称及び代表者の氏名〕

長野県地域と調和した太陽光発電事業の推進に関する条例第 9 条第 1 項（第21条第 3 項、第27条及び附則第 6 項において準用する場合を含む。）の規定により、次のとおり提出します。

太陽光発電施設の設置の場所		長野県塩尻市大字柿沢字永井坂886番1、886番4、887番1、887番4、886番5
事業区域の位置及び面積		別添「位置図及び事業区域図」参照 7056.8 m ²
太陽光発電電力施設の合計出力		675.0kW (太陽電池の合計出力 1029.6kW)
太陽光 発電事 業の内 容及び 実施予 定期間	発電電力の用途	☒ 売電 ☐ 自家消費 設備ID (なし オフサイトPPA方式により電力売電予)
	設置工事着手予定日	2025年8月1日
	設置工事完了予定日	2026年2月27日
	運転開始予定日	2026年2月27日
	施設撤去予定日	2051年2月27日
太陽光発電施設の設置に関する計画		別添「太陽光発電施設設置計画書」参照
太陽光発電施設の構造に関する事項		地上設置型太陽光発電システムの設計ガイドライン等を参照の上、構造（強度）計算を行い、架台について風雪に耐えられる強固なものとする。
景観の保全のための措置の検討に関する事項		別添「景観の保全のための措置の検討状況書」参照
環境の保全のための措置の検討に関する事項 ※（環境配慮区域に太陽光発電施設に設置する場合に限る。）		該当なし
維持管理計画に関する事項		別添「維持管理計画」参照
関係市町村長及び関係住民の範囲並びにその根拠		範囲 東山区自治会、柿沢区自治会

	根拠	東山区自治会長及び柿沢区自治会長に確認。 再エネ特措法に基づく「説明会及び事前周知措置実施ガイドライン」に準拠。
事業基本計画説明会の開催の日時及び場所	日時	2025年4月1日（火）19時00分～
	場所	柿沢公民館 長野県塩尻市大字柿沢529
意見の提出先	【郵送提出先】 東京都港区芝2-5-10 芝公園NDビル 6 階 GDsPJ2合同会社 埴宛て 【電子メール】 ryo.hanawa@gpss.jp	
土地の権原の取得予定	土地契約合意済み / 市と協議中	
地域社会に資する事項	自治会費、地域行事への協賛金の納付	
備考	連絡先 （電話番号）070-4847-8171 （FAX番号）03-6435-2392 （電子メールアドレス）ryo.hanawa@gpss.jp	

注1 該当する□内に△印を記入すること

- 2 「太陽光発電施設の設置の場所」欄は、提出に係る太陽光発電施設の事業区域が所在する土地の地番全て記載すること。
- 3 「事業区域の位置及び面積」欄には、小数第1位まで記載すること。
- 4 「太陽光発電施設の合計出力」欄は、小数第1位まで記載すること。
- 5 「発電出力の用途」欄は、再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（平成23年法律第108号）第9条第1項の規定による申請手続中の場合は、その旨を記載すること。
- 6 「備考」欄には、電話番号、FAX、電子メールアドレス等の連絡先を記載すること。

(参考様式) (第9条関係)

太陽光発電施設設置計画書

防災対策等設置施設	☒ 調整池 ☐ 沈砂池 ☒ 排水設備 ☐ 擁壁 ☒ 管理用道路 ☐ その他（ ）		
特定区域の該当 ※該当するものは事業区域図に明示すること	☐ 地域森林計画対象民有林 ☐ 地すべり防止区域 ☐ 急傾斜地崩壊危険区域 ☐ 土砂災害特別警戒区域 ☐ 砂防指定地 ☒ 該当なし		
環境配慮区域の該当 ※50 キロワット以上の事業に限る ※該当するものは事業区域図に明示すること	☐ 国有林・地域森林計画対象民有林 ☐ 国立公園・国定公園・長野県立自然公園 ☐ 長野県自然環境保全地域 ☐ 郷土環境保全地域 ☐ 水道水源保全地区 ☐ 水資源保全地域 ☐ 希少野生動植物の生息地等保護区 ☐ 鳥獣保護区 ☒ 該当なし		
工程表	添付資料参照		
工事車両の運行計画	想定される台数（延べ） 4 台/日（延べ 400 台） 運行時間 8:00～17:00 経路 国道 20 号線から現場へ		
造成工事	盛土の有無	⑦ ・ 無	想定盛土量 23.0 m³
	切土の有無	⑦ ・ 無	想定切土量 444.1 m³
	事業区域外からの搬入量		— m³
	事業区域からの搬入量		0 m³
排水処理設備の有無	⑦ ・ 無		
	排出経路	場内の堀込型浸透式調整池の浸透排水による	
送電設備	☐ 鉄塔 ☒ 電柱 ☐ 地下埋設		

(参考様式) (第7条関係)

景観の保全のための措置の検討状況書

項 目		検 討 事 項	配慮する内容
太陽電池 モジュール	全体	(1) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避ける。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないように、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめる。	斜面や高台ではなく、周囲に林地が広がる裸地に計画するため、遠方から目立つ場所には設備は設置されない。また、現況が裸地かつ造成も最小限であるため、景観の連続性が建設前後で大きく変わることはない。
		(2) 公共的な眺望点からの景観への影響に特に留意し、完成予想図の作成（シミュレーション）等を実施する。 ※検討で作成した完成予想図は添付すること	シミュレーションから高ボッチ高原3大標高展望広場から事業地は見えないことを確認した。 ※完成予想図参照。
	配置	(1) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させる。	モジュールに最も近くなる西側の住宅から、フェンスまでは最低約8m、フェンスからモジュールまでは最低約2mの離隔を確保した。
		(2) 施設の規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が連続することを避ける。	敷地内の十分な幅の管理用道路により、モジュールを複数に分割した。
	規模	(1) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さは極力抑える。	冬期の積雪を勘案し、モジュールの最低部分を1.0m、最高部分は約2.5mとした。
		(2) 主要な道路や公共的な眺望点から見える場合は、太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑える。	南東側の林地に向かってモジュールを設置するため、眺望点への圧迫感は低減される。また、目線を超える高さのフェンスを設置するため、近隣から見える景観にも配慮している。
	形態・意匠	(1) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせる。	地盤調査や現況測量を踏まえ、各種基準に則った安全な構造物に設計・架台選定をした。モジュールの向きは全て同じ方位・傾斜で計画しており、不陸の少ない現況地形なりの配置をしているため、配

			列は煩雑ではなく整然としている。
		(2) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周囲の山並み、建築物の屋根等と極力整合させる。	モジュールの傾斜角は 10° と小さく、モジュールの方位角を地表面の勾配方向と直交方向にしているため、現況地形に沿ったモジュールの配置形態になっている。
		(3) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路等から見えにくくする。	モジュールの裏面を周辺の道路から見るのは困難な配置になっている。発電所の裏側（北西の林地や）や、高いフェンスで囲まれた発電所内に入らないと見えづらい。

項 目		検 討 事 項		配慮する内容
太陽電池 モジュール	材料・ 色彩等	(1) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行う。また、素材の結晶が目立たないものを選択する。		防眩処理が施され、結晶が目立たないものを選択した。
		(2) 黒又は濃紺を基本とし、低明度かつ低彩度の目立たないものとする。		黒色を選択した。
		フレーム	(1) 低反射の素材を用いる。	アルマイト処理をしたアルミ合金製を採用している。
			(2) 太陽電池モジュールと同系色を用いる。	モジュールと同様に落ち着いた色であるシルバーとした。
附帯施設・ 附属施設		(1) フェンス等については、色彩、形態・意匠に配慮する。		施設の全周にフェンスを設置したが、景観に配慮し茶色（7.5YR5/6）とした。
		(2) 電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努める。		新設は必要最低限の本数とするよう検討した。
		(3) 架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の付属設備については、色彩等に配慮する。		架台はシルバーを、パワーコンディショナーはグレーベージュであるため、落ち着いた配色になっている。
敷地の緑化		(1) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。		敷地内の樹木の伐採は行わない。
		(2) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。		敷地内の樹木の伐採は行わない。
その他		(1) 施設の規模が大きく主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討する。		周囲の樹木や山脈によって、近隣に反射光が差し込むほど低い太陽高度の入射光は遮られる計画地である。仮に低高度で太陽光が差し込んでも、目線を超える高さのフェンスによって反射光は遮られる。
		(2) 施設及び敷地内は、定期的に保守点検を行うなど、適切に維持管理を行い、景観の保守に努める。		25年間の維持管理計画を立て、それに沿って管理を行う。
		(3) 事業区域場所の景観行政団体の定める景観育成基準への適合を確認する。		松本建設事務所建築課に景観育成基準へ適合していることを確認した。

上記以外でも、設置箇所周辺の土地利用状況、周辺景観の状況に応じて、より効果的な配慮方法を工夫してください。

(参考様式) (第 19 条関係)

維 持 管 理 計 画

作成日 2025 年 3 月 10 日

太陽光発電施設の設置場所	長野県塩尻市大字柿沢字永井坂 886 番 1、886 番 4、887 番 1、887 番 4、886 番 5	
事業者名（法人にあつては、主たる事務所の所在地、名称、代表者の氏名、住所及び連絡先）	住所 東京都港区芝二丁目 2 番 10 号中和ビル 3 階 名称 GDsPJ2 合同会社 代表社員 一般社団法人ジャパנקリーンエナジー1 職務執行者 松澤 公貴 連絡先 070-4847-8171（担当：埴）	
保守点検責任者	氏名及び住所	リニューアブル・ジャパン株式会社 東京都港区虎ノ門 1-2-8 虎ノ門琴平タワー6 階
	電話番号	03-5510-9086（代表）
合計出力	675.0 kW	
維持管理の内容	別紙のとおり	
施設撤去予定日（事業終了予定日）	2051 年 2 月 27 日予定	
損害保険の加入状況	■有 □無 （保険内容 自然災害 電氣的・機械的事故の対応）	
太陽光発電施設を撤去する際の対応	太陽光発電施設の処分は廃棄物処理業者に依頼予定。 撤去後は現状復帰の予定。 売電収入より撤去・廃棄費用外部積立実施。	
維持管理計画及び状況の公表方法	標識に掲示予定	

※標識に掲示することにより公表する場合には、標識の記載項目と同一のところは記載を省略することができます。

＜太陽光発電施設等の周辺において土砂災害等が発生するおそれがある場合に予定している措置の内容＞

○強風による飛散

太陽電池モジュール、課題の固定部に緩みがないこと、基礎などが強度不足になるような劣化がないことを保守点検項目に従い巡視を実施

○豪雨による水害

- ・土砂崩れ等の兆候がないか、排水機能に異常がないか、保守点検項目に従い巡視を実施
- ・遠隔カメラより発電所の場内を定期的に監視。

＜土砂災害等により太陽光発電施設の損壊が生じ、又は周辺地域の環境の保全に支障が生じた場合に予定している措置の内容＞

- ・事故・災害が発生した場合には、迅速に状況を把握し、関係機関（県、市、自治会など）に連絡をする。
- ・土砂の流出やパネルの飛散など周辺環境に影響を及ぼした場合は、速やかに撤去し、二次災害

が起きないよう対策を講じる。

<別紙>

太陽光を電気に変換する施設

対象	該当の有無	点検箇所	点検項目	点検方法	点検頻度	点検実施日
太陽電池アレイ	■	太陽電池モジュール	表面及び裏面に著しい汚れ、きず、破損がない。	目視	年4回	四半期1回ずつ
			端子箱に破損、変形がないか		年4回	四半期1回ずつ
			フレームに著しい汚れ、きず、腐食、破損がない。		年4回	四半期1回ずつ
	■	コネクタ	破損、変形がなく確実に結合されている。		年4回	四半期1回ずつ
	■	ケーブル	配線に著しい汚れ、さび、腐食、きず、破損がない。		年4回	四半期1回ずつ
			配線に過剰な張力、余分な緩みがない。		年4回	四半期1回ずつ
	■	電線管	破損、変形、汚損、腐食がなく正しく固定されている。		年4回	四半期1回ずつ
	■	接地線	接地線に著しい破損、断線がなく正しく接続されている。		年4回	四半期1回ずつ
			接続部に緩み、破損がない。		年4回	四半期1回ずつ
	■	架台	基礎に著しいひずみ、損傷、ひびなどの破損が進行していない。		年4回	四半期1回ずつ
			架台の変形、きず、汚損、さび、腐食、破損がない。		年4回	四半期1回ずつ
			積雪による沈降、不等沈降、地際腐食等などの影響がない。		年4回	四半期1回ずつ
			ボルト、ナットの緩みがない。		年4回	四半期1回ずつ
			固定強度に不足の懸念がない。		年4回	四半期1回ずつ
接続箱	■	本体	著しい汚損、さび、腐食、破損、変形がない。		年4回	四半期1回ずつ
			固定ボルトなどに緩みがなく確実に取り付けられている。		年4回	四半期1回ずつ
			雨水、じんあい等の侵入がない。		年4回	四半期1回ずつ
	■	配線	配線に著しい汚損、破損、きず、さびがなく正しく固定されている。		年4回	四半期1回ずつ

漏電遮断器	■	本体	著しい汚れ、さび、腐食、破損、変形などがない。		年4回	四半期1回ずつ
	■	配線	配線に著しいきず、破損がない。		年4回	四半期1回ずつ
パワーコンディショナー	■	本体	著しい汚れ、さび、腐食、きず、破損、変形がない。		年4回	四半期1回ずつ
			固定ボルトなどに緩みがなく確実に取り付けられている。		年4回	四半期1回ずつ
			コーキングなどの防水処理に異常がなく雨水などの侵入がない。		年4回	四半期1回ずつ
			運転時の異常な音、振動、臭い、加熱がない		年4回	四半期1回ずつ
	■	配線	配線に著しい汚れ、破損、汚れ、さび、腐食、破損などがない。		年4回	四半期1回ずつ

附帯施設

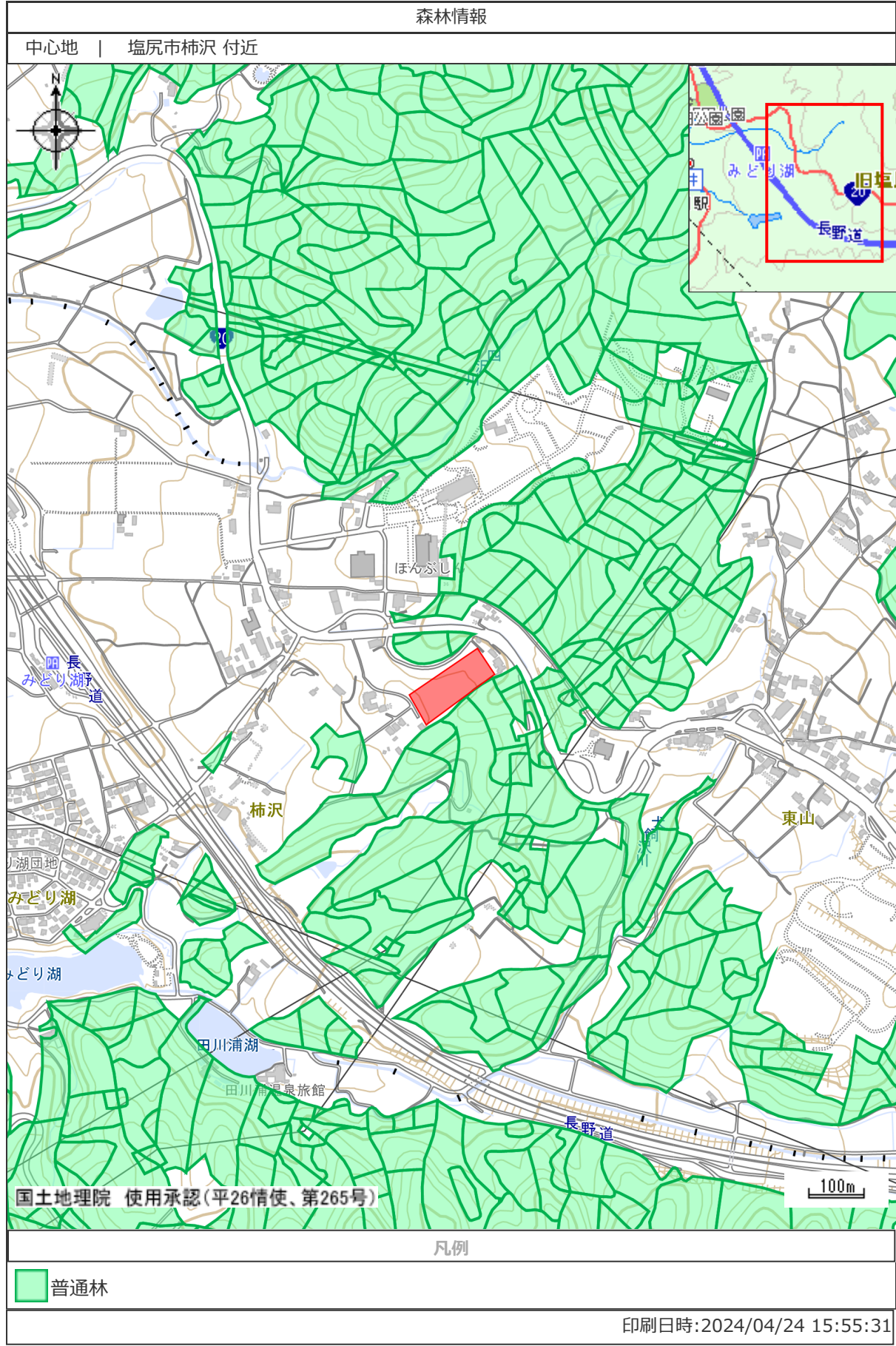
対象	該当の有無	点検箇所	点検項目	点検方法	点検頻度	点検実施日
法面・擁壁	■	切土法面	小段の沈下がない。	目視		
			排水溝の損傷がない。		年4回	四半期1回ずつ
			目地にずれがない。			
			開口量の大きな亀裂が発生していない。		年4回	四半期1回ずつ
			吹付工法等の剥離がない。		年4回	四半期1回ずつ
			法枠工法等の破断がない。			
			はらみ出しの発生がない。		年4回	四半期1回ずつ
			大量の湧水（濁り）がない。		年4回	四半期1回ずつ
			崩落がない。		年4回	四半期1回ずつ
			上部斜面からの土砂流出がない。		年4回	四半期1回ずつ
	■	盛土法面	小段の沈下がない。		年4回	四半期1回ずつ
			段差が発生していない。		年4回	四半期1回ずつ

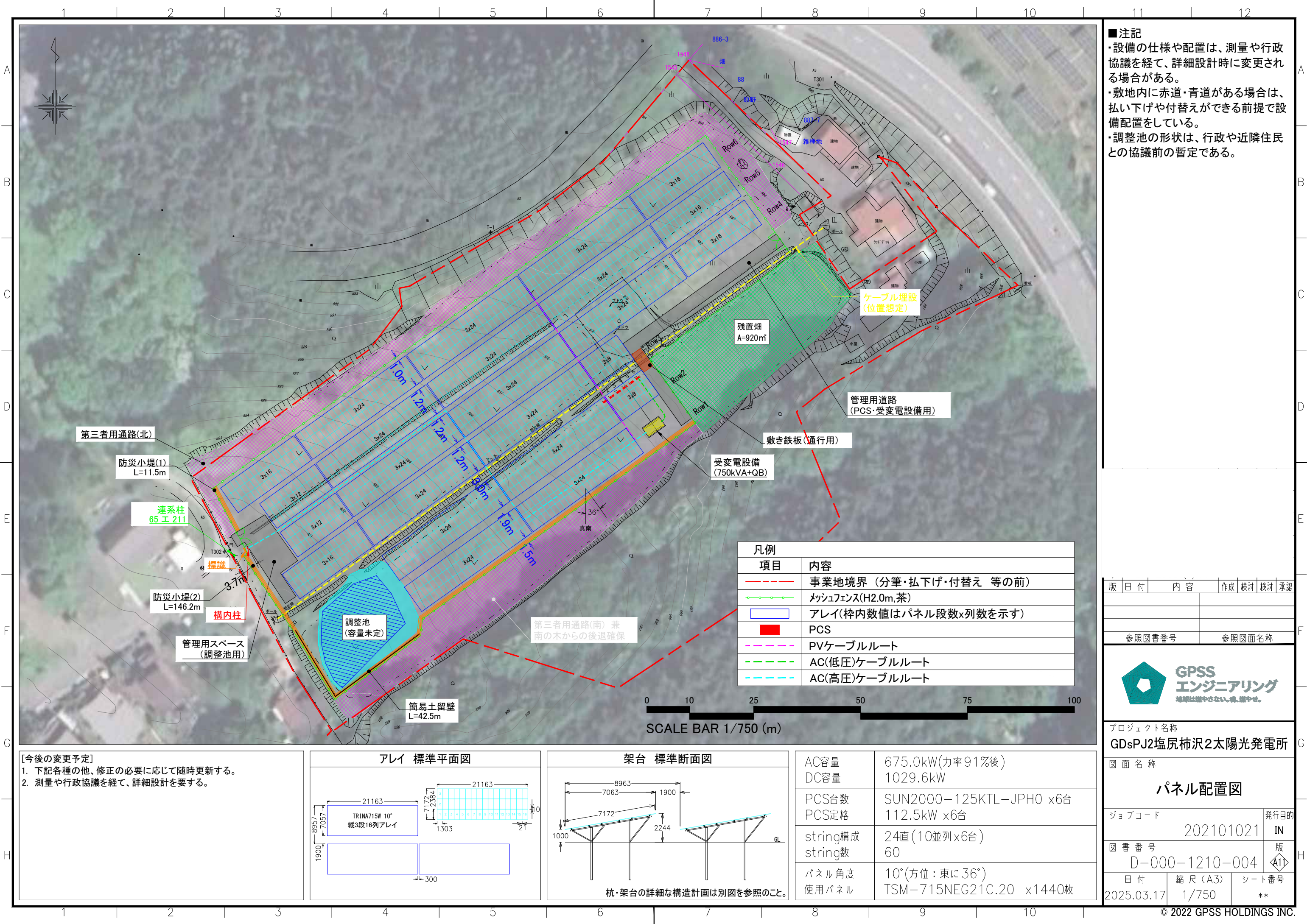
			排水溝の損傷がない。			
			法尻の崩落がない。		年4回	四半期1回 ずつ
			オーバーフローによる洗掘がない。		年4回	四半期1回 ずつ
			大量の湧水（濁り）がない。		年4回	四半期1回 ずつ
			湧水箇所の軟弱化がない。		年4回	四半期1回 ずつ
		擁壁	亀裂、割れが生じていない。			
			座屈、段差、傾斜がない。			
			つなぎ目にずれがない。			
			水抜き穴につまりがない。			
			水抜き穴から異常な土砂流出がない。			
			地山に変形がない。			
排水設備	■	排水溝、枡	水路に落下物等のつまり、堆積がない。		年4回	四半期1回 ずつ
			亀裂、ずれがない。		年4回	四半期1回 ずつ
			破損がない。		年4回	四半期1回 ずつ
			排水設備外への漏水がない。		年4回	四半期1回 ずつ
調整池	■	堤体	上下流の法面に崩れ、亀裂、損傷、陥没、漏水がない。		年4回	四半期1回 ずつ
			堤頂に亀裂、沈下、損傷、陥没、漏水がない。		年4回	四半期1回 ずつ
			草木の繁茂がない。		年4回	四半期1回 ずつ
	□	基礎	堤体の基礎に漏水、地山のはらみ出し、沈下、崩壊がない。			
	□	余水吐き	導流水路に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			越流部に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			放流水路に亀裂、損傷、劣化及び継ぎ目の開きがない。			
	□	放流施設	規定の放流先以外への漏水、土砂の流出がない。			
			呑口部に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			吐き口に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。			
			油等の浮遊がない。			

	■	貯留部	法面に崩れ、亀裂、破損、湧水がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			天端に損傷、沈下、陥没、損傷がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			貯留部低地に著しい土砂の堆積がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			油等の浮遊がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			下流河川（周辺）に洗掘、崩壊がない。			
防護柵、 塀	■	フェンス（防護柵）	著しいさび、きず、破損、傾斜がない。		年4回	四半期 1回ずつ
	■	標識（事業計画、 注意喚起）	視認性を損なう汚れ、文字の色落ち、擦れ、破損がない。		年4回	四半期 1回ずつ
	■	入口扉	開閉に異常がなく施錠に問題がない。		年4回	四半期 1回ずつ
進入路・ 管理道	■	通路等	周辺からの土砂の流入、堆積がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			事業地周辺への土砂の流出がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			雨水等による洗掘がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			草木の繁茂がない。		年4回	四半期 1回ずつ
設置地盤	□	舗装あり地盤	亀裂、剥離がない。			
			段差、傾斜がない。			
			空洞の発生（土砂の流出）がない。			
			隆起の発生がない。			

設置地盤	■	舗装なし地盤	周辺からの土砂の流入、堆積がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			事業地周辺への土砂の流出がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			雨水等による洗掘がない。		年4回	四半期 1回ずつ
			草木の繁茂がない。		年4回	四半期 1回ずつ

※施設の規模や立地、設備に応じた内容の点検項目を適宜追加してください。





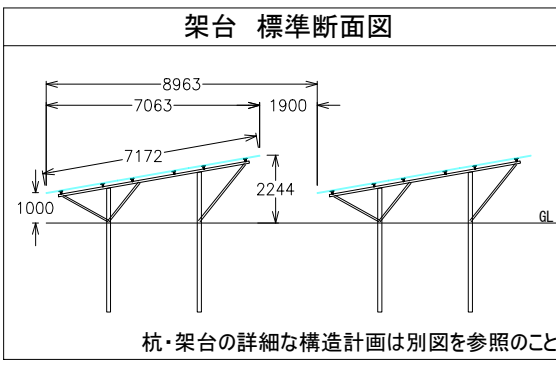
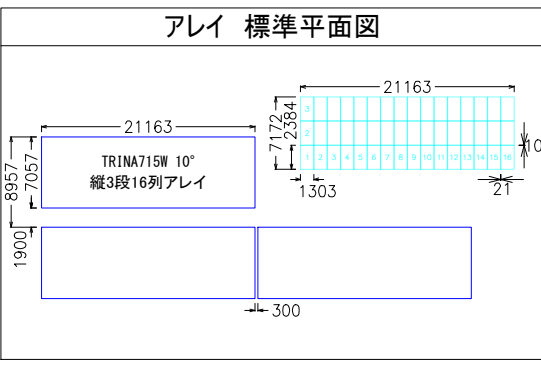
■注記

- ・設備の仕様や配置は、測量や行政協議を経て、詳細設計時に変更される場合がある。
- ・敷地内に赤道・青道がある場合は、払い下げや付替えができる前提で設備配置をしている。
- ・調整池の形状は、行政や近隣住民との協議前の暫定である。

凡例	
項目	内容
---	事業地境界（分筆・払下げ・付替え 等の前）
---	マッシュフェンス(H2.0m,茶)
	アレイ(枠内数値はパネル段数x列数を示す)
	PCS
---	PVケーブルルート
---	AC(低圧)ケーブルルート
---	AC(高圧)ケーブルルート

[今後の変更予定]

1. 下記各種の他、修正の必要に応じて随時更新する。
2. 測量や行政協議を経て、詳細設計を要する。



AC容量	675.0kW(力率91%後)
DC容量	1029.6kW
PCS台数	SUN2000-125KTL-JPH0 x6台
PCS定格	112.5kW x6台
string構成	24直(10並列x6台)
string数	60
パネル角度	10°(方位: 東に36°)
使用パネル	TSM-715NEG21C.20 x1440枚

版	日付	内容	作成	検討	検討	承認
参照図書番号			参照図面名称			



GPSS
エンジニアリング
地球は驚やさない。我、驚やせ。

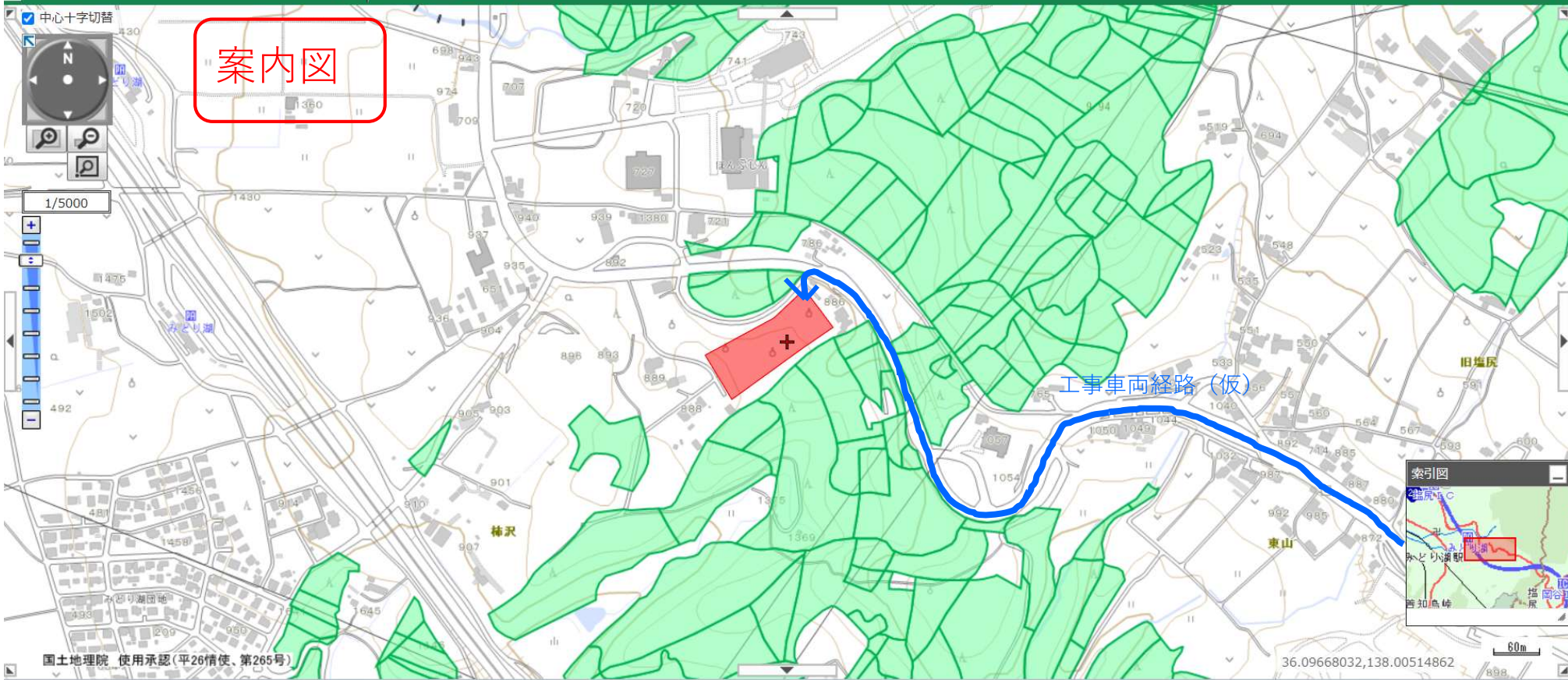
プロジェクト名称
GDsPJ2塩尻柿沢2太陽光発電所

図面名称
パネル配置図

ジョブコード	202101021	発行目的	IN
図書番号	D-000-1210-004	版	A1
日付	2025.03.17	縮尺(A3)	1/750
シート番号	**		

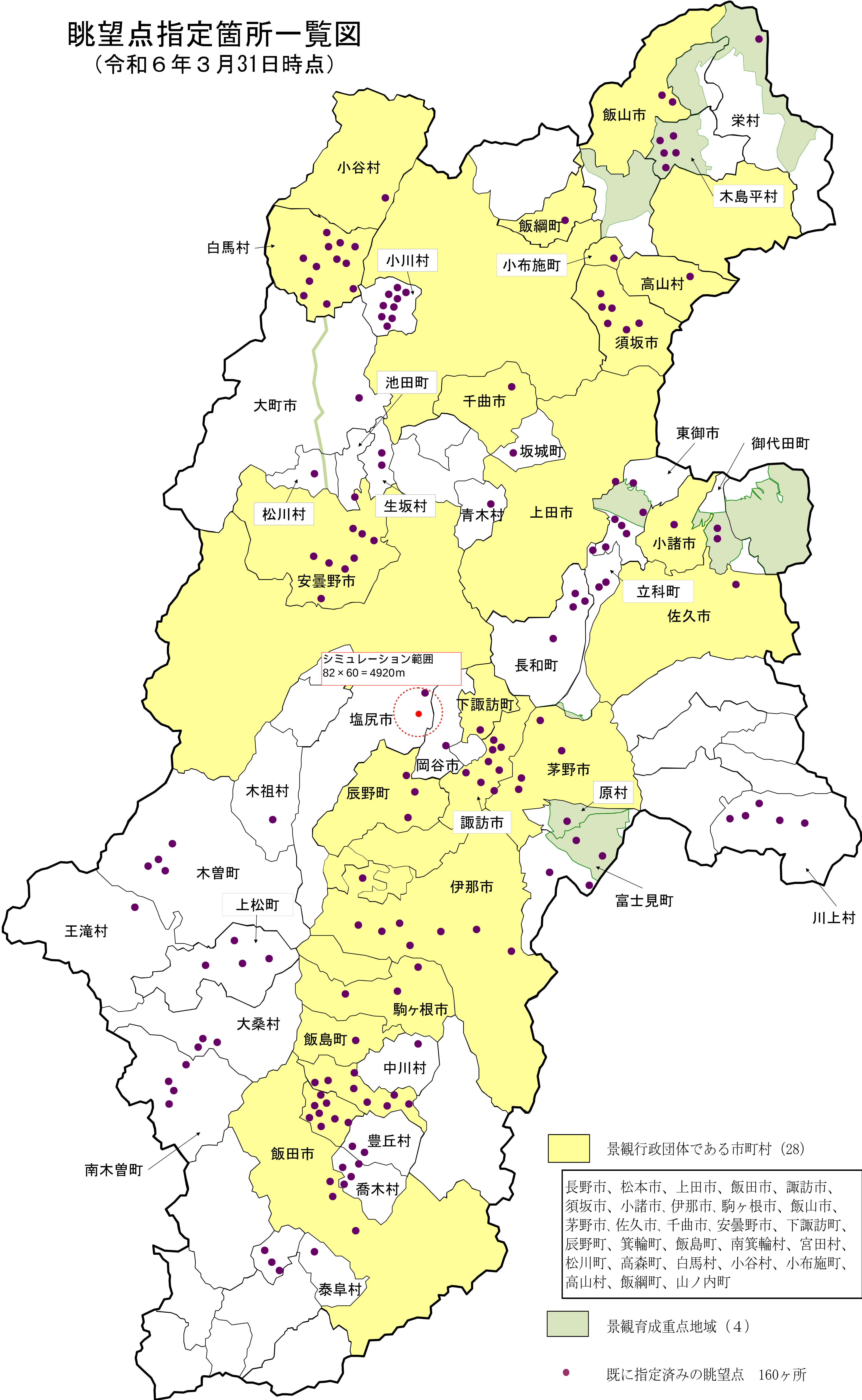
GDsPJ2塩尻柿沢2太陽光発電所 事業スケジュール

[illegible]

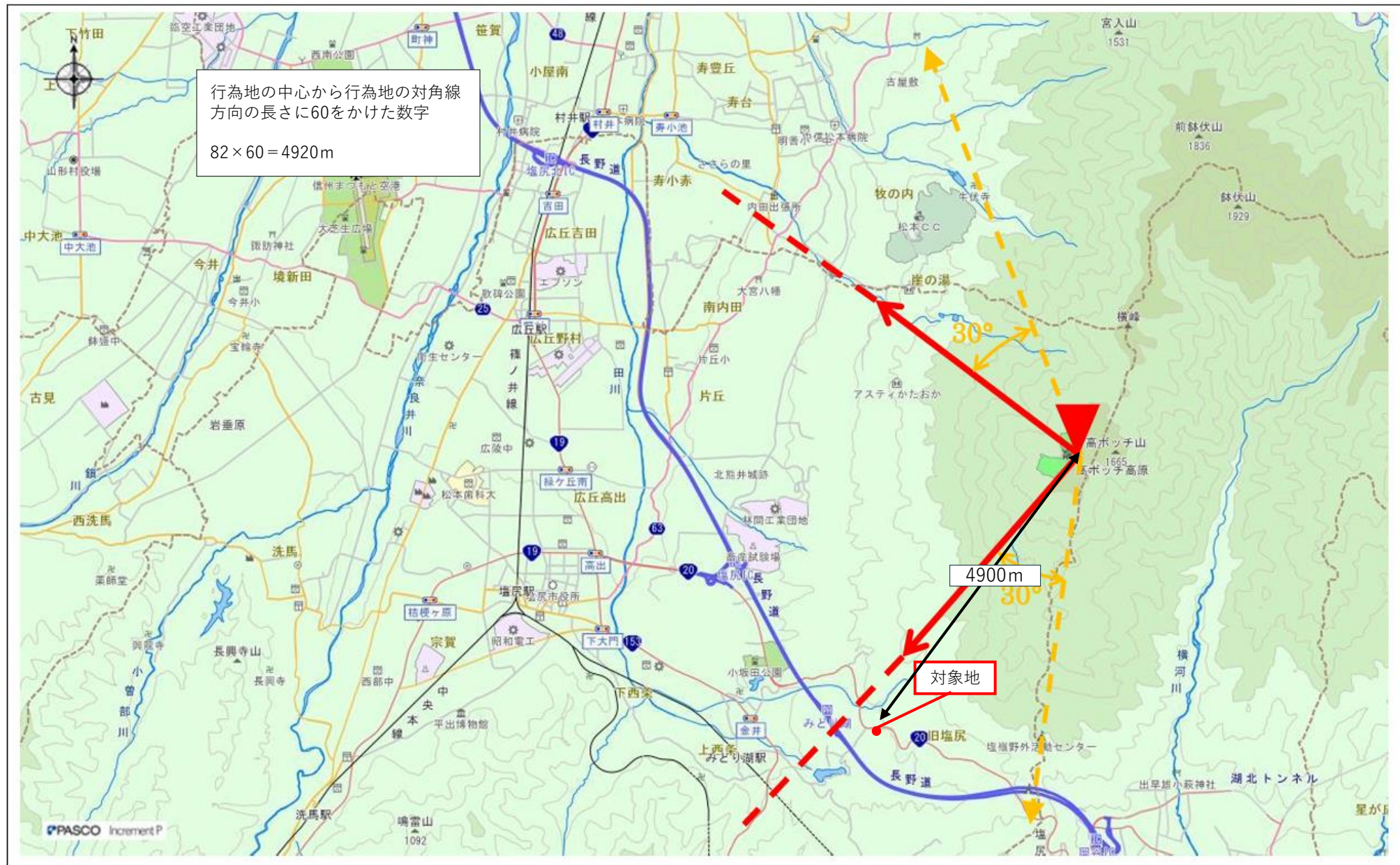


眺望点指定箇所一覧図

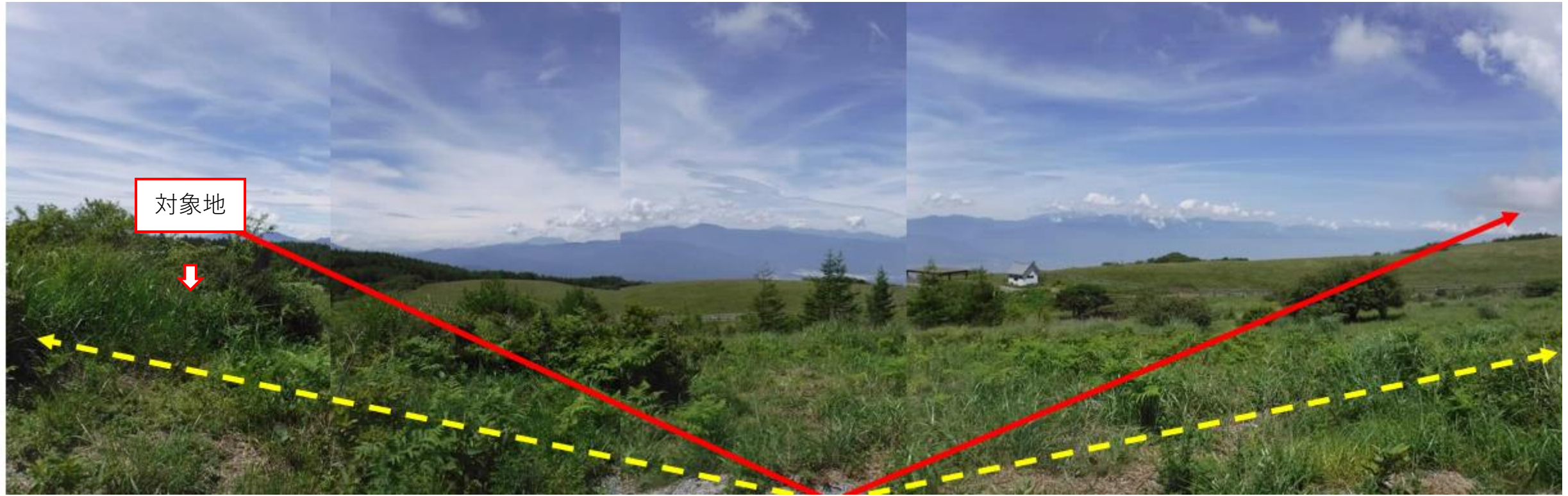
(令和6年3月31日時点)



高ボッチ高原 3大標高展望広場



完成予想図
高ボッチ高原 3大標高展望広場



眺望点から現地は見えません

完成予想図完成予想図（拡大）
高ボッチ高原 3大標高展望広場



眺望点から現地は見えません